

保存版

村山市

防災マップ

キケンを
事前に知ろう。



村山市キャラクター
「ムラ」

災害情報を入力し、早めの準備、安全行動を!

防災行政無線



災害発生が予想される場合や火災情報は、屋外スピーカーにより、避難情報などを一斉に放送します。聞き取れないときは、窓を開けて聞くか、屋外へ出て聞き取る行動をしてください。

- 【主な広報内容】
- 全国瞬時警報システム（Jアラート）で緊急地震速報、特別警報等の広報
 - 「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」の行動を呼びかける広報
 - 火災場所等の災害情報に係る広報
 - 災害対応の訓練、又は訓練に関する広報

屋外スピーカーからの内容が聞き取れなかった場合は、放送の内容を電話で確認できるシステム（自動音声応答システム）があります。

防災無線テレホンサービス 0237-53-6644

広報車、消防団の巡回広報

市の広報車、消防団からの巡回広報等により、情報を提供します。車両スピーカーも大雨の場合は聞き取りづらいときがあります。窓を開けるなどの行動で確認しましょう。

市ホームページと他団体のインターネット

市のホームページにも避難情報等の内容をお知らせします。その他、山形県や気象庁などもインターネット上にいろいろな情報を発信しています。気象情報などを入手して事前準備などに活かしましょう。

- 村山市ホームページ <https://www.city.murayama.lg.jp/>
- こちら防災やまがた！ <https://www.pref.yamagata.jp/bosai/>
- 山形県河川・砂防情報 <http://www.kasen.pref.yamagata.jp/>
- 気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp/>

エリアメール・緊急速報メール

NTT ドコモ、au、ソフトバンクの携帯電話をお持ちの方が、村山市にいるときに当市などが発信する限定的な情報を強制的にメール通知します。

【限定情報の内容】 ●全国瞬時警報システム（Jアラート）の一部や「避難準備情報」等の避難行動を呼びかける広報のみ限定

テレビ・ラジオ



テレビ・ラジオなどの情報機関に対し、市から情報提供いたします。また、他に災害に関するいろんな情報を発信していますので、それらを活かしましょう。

避難とは・・・

避難は、災害から生命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

- | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1
指定緊急
避難場所・
指定避難所
への移動 | 2
警戒区域等内の自宅などから
移動し、安全な場所への避難。
(公園、親戚や友人の家など) | 3
近隣の強固で
高い建物など
への移動 | 4
建物内の安全な場所での待避
(家屋内の垂直避難)
やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動
として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害
対策では、斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。 |
| 屋外が安全で移動できる状態のとき | | | 屋外が危険な状態のとき |

避難勧告等の種類と、住民の皆さんの対応

避難勧告等は、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難勧告」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。

警戒レベル	区分	避難情報が発表された際の住民のみさんの行動
警戒レベル3	避難準備・ 高齢者等避難開始	<input type="checkbox"/> 気象情報に注意を払い、いつでも避難ができるよう準備をしましょう。身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。 <input type="checkbox"/> 避難に時間を要する人(高齢の方、障がいのある方、乳幼児をお連れの方等)は避難を開始しましょう。
警戒レベル4	避難勧告	<input type="checkbox"/> 地区等で計画された避難場所へ避難しましょう。
警戒レベル4	避難指示(緊急)	<input type="checkbox"/> まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難しましょう。 <input type="checkbox"/> 外に出ると危険な場合や、避難する時間がない場合は、自宅の安全な場所(2階等)に避難しましょう。

※「自主避難」とは・・・避難勧告等を待たず、自主的に避難施設、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、できるだけ必要な食糧、飲み物、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いていたら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコン等で最新の気象情報を入力しましょう。

市民の皆様へ



村山市長 志布 隆夫

市民の皆様におかれましては、日頃より市政運営に対し、格別なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、近年は、全国各地で予測できない災害が頻繁に発生しています。異常気象がもたらす局地的豪雨被害や、大型台風の上陸のほか、大規模地震の発生など、当市でも例外ではありません。こうした状況の中では、日頃から一人一人が防災意識を高めることが大切です。

今回作成しました「村山市防災マップ」を有効に活用していただき、自助・共助・公助を基本とした災害予防活動の一助になれば幸いです。

今後も市民の安心安全のため、防災行政を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

索引

市民の皆様へ・索引	1	詳細図No. 5 (名取、大淀、金谷、富並、田沢)	19・20
特別警報が発表されたら	2	詳細図No. 6 (金谷、本飯田)	21・22
風水害対策について	3	詳細図No. 7 (岩野、長善寺、樽石、稲下、白鳥)	23・24
土砂ハザード情報について	4	詳細図No. 8 (楯岡、河島、杉島、名取、河島山、大楯)	25・26
洪水ハザード情報について	5	詳細図No. 9 (楯岡、林崎、櫛山)	27・28
地震対策について・山形盆地断層帯マップ図(村山市)	6	詳細図No. 10 (湯野沢、大久保)	29・30
行政・学校・ライフライン連絡先、指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所について	7・8	詳細図No. 11 (楯岡、河島、基点)	31・32
村山市全体図	9・10	詳細図No. 12 (楯岡)	33・34
詳細図No.1 (山の内)	11・12	洪水浸水想定区域浸水継続時間	35
詳細図No.2 (富並、田沢、土生田)	13・14	わが家の防災対策&チェック	36
詳細図No.3 (土生田、五十沢)	15・16	非常時持出品の準備&チェック	37
詳細図No.4 (長島、白鳥、富並)	17・18	わが家の「防災・緊急情報」メモ	38
		災害情報を入手し、早めの準備、安全行動を!	巻末

発行：村山市[問い合わせ：総務課 情報危機管理係 0237-55-2111(代)]

制作・著作：株式会社ゼンリン山形営業所[問い合わせ：023-647-7464]

作成：2019年3月

詳細図：[この地図は、村山市長の承認を得て同市保管の村山市地形図(村山市公共下水道平面図)を使用し調整したものである。](水第148号)

詳細図：[この地図は、村山市長の承認を得て同市保管の村山市平面図(全国)を使用し調整したものである。](農第252号)

詳細図：[この地図は、最上川(国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 平成29年告示)、大旦川(山形県 平成30年告示)、富並川(山形県 平成31年告示)の洪水浸水想定区域図を使用し調整したものである。]

特別警報が発表されたら ただちに命を守る行動を!

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

表中の”数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

緊急地震速報(震度6弱以上)などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
 電話：03-3212-8341 FAX：03-6689-2917 (耳の不自由な方向け)
 気象庁ホームページ
<https://www.jma.go.jp/>
 特別警報について
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/tokubetsu-keiho/>

風水害対策について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



各種情報をキャッチ!こんなときのが家の安全対策。

まずは、**確実な情報が大事**。その次に**迅速な対応**。

大雨・強風・暴風の発表基準

大雨注意報	大雨警報	強風注意報	暴風警報
大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。1時間に雨量が30mm以上	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。1時間に雨量が50mm以上	強風によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。平均風速が12m/s以上	暴風によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。平均風速が18m/s以上
記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm			
上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。			

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩かなくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立つてられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/秒以上 44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上 54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

局地的大雨と集中豪雨

気象庁の定義によると、「局地的大雨」は単独の積乱雲が急激に発達して降らせる一過性の大雨のことで「ゲリラ豪雨」とも呼ばれることもあります。局地的に数十ミリになります。「集中豪雨」は積乱雲が同じ場所で次々と発達を繰り返し、雨が数時間にわたって降り続く現象です。狭い範囲に数百ミリの雨を降らせず。

その中でも、積乱雲が連続して発生し線状に並びその規模が幅20~50km、長さが50~200kmになるものが「線状降水帯」と呼ばれています。停滞性の線状降水帯は、同じ場所で激しい雨が長時間降り続き、まさにその場所にいる人にとっては経験したことのない大雨となり、甚大な被害をもたらすおそれがあります。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日間(1週間)分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう!



地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。※村山市には3箇所のアンダーパスがあります。

土砂ハザード情報について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日頃から危険箇所、避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、市町村長の避難勧告等の判断を支援するよう、また、住民の自主避難の参考となるよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、特に早めの避難を心がけてください。村山市からの避難に関する情報に留意するとともに、土砂災害警戒情報を自主避難の参考にしてください。土砂災害警戒情報が発表されたときは、気象庁のホームページの土砂災害警戒判定メッシュ情報で土砂災害発生の危険度が高まっている区域をご確認ください。

危険箇所内の重要性の高い箇所について

土石流 特別警戒区域

1. 特別警戒区域は、警戒区域のうち土砂災害が発生した場合、建築物に損傷が生じ住民の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、一定の開発行為の制限や居室を有する建築物の構造が規制される土地の区域です。

土石流 警戒区域

2. 警戒区域は、土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域です。過去の土砂災害による土砂の到達範囲などを勘案して設定されます。

急傾斜 特別警戒区域

※「土石流」「急傾斜地の崩壊」「地すべり」とは

- 土石流……山から崩れた土や石が水といっしょになってものすごい勢いで流れ下がってくる現象
- 急傾斜地の崩壊……急な斜面が崩れる現象
- 地すべり……やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く現象

急傾斜 警戒区域

地すべり 警戒区域

※P11~34詳細図 土砂災害凡例

土砂災害の種類

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

洪水ハザード情報について

H27年の水防法改正に基づき、最上川・大旦川・富並川で浸水域の公表がありました。以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

説明

- この「マップ」で使用しているハザード情報は、最上川・大旦川・富並川が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。



洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

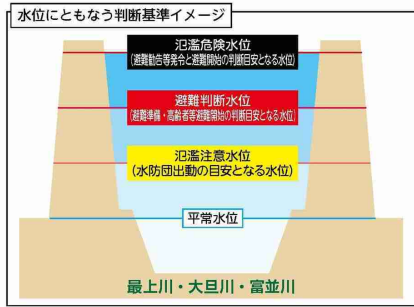
- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。
1時間に雨量が30mm以上

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。
1時間に雨量が50mm以上

指定河川洪水予報など

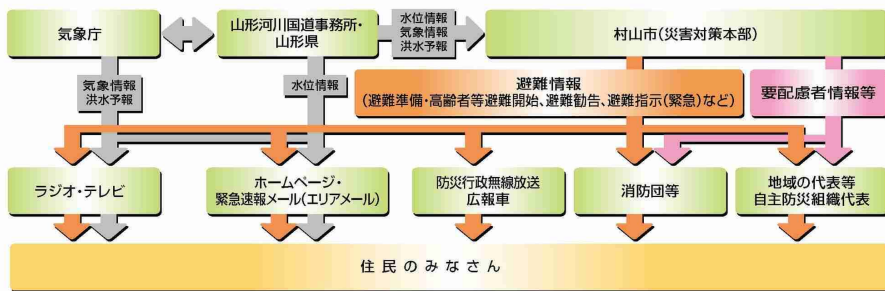
- 最上川については、山形地方気象台の予測する降水量をもとに、河川を管理する山形河川国道事務所が河川水位の危険度を予測し、共同発表します。
大旦川・富並川については、水位周知河川に指定されており、避難判断水位に達したとき山形県が「避難判断水位到達情報」を発表します。



※基準水位や現況水位は、「山形県河川・砂防情報システム」で確認できます。
<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/bousai/>

洪水情報の伝達ルート(土砂災害情報も同じ)

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



避難情報の伝達ルートがオレンジ色になります。

情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

身の安全が最優先

- 倒れてくる物から身を守る (シェイクアウト行動)
- 戸を開け逃げ道を確保 ●慌てて外に飛び出さない

揺れがおさまったら

- 火の確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根・ブロック塀・自動販売機等要注意

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう ●要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う ●ケガ人はいないか
- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のリレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意 ●家屋倒壊の恐れがあれば避難

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する ●災害用伝言ダイヤルの活用

協力して消火活動、救出・救護活動を

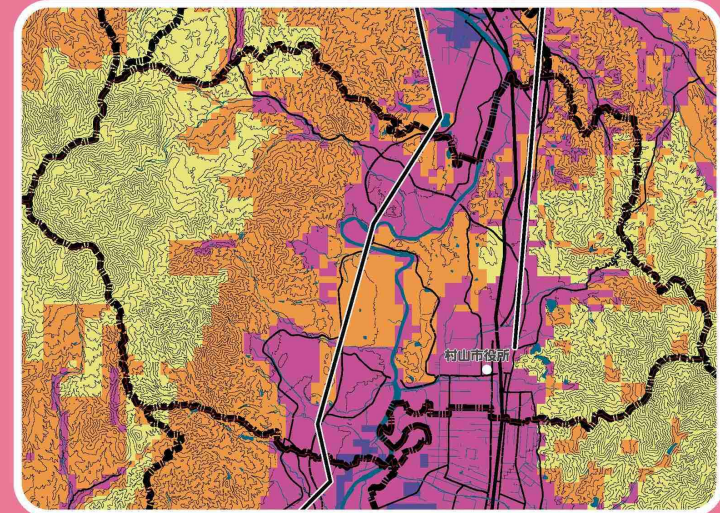
- 水、食料は蓄えているものでまかなう 1週間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない



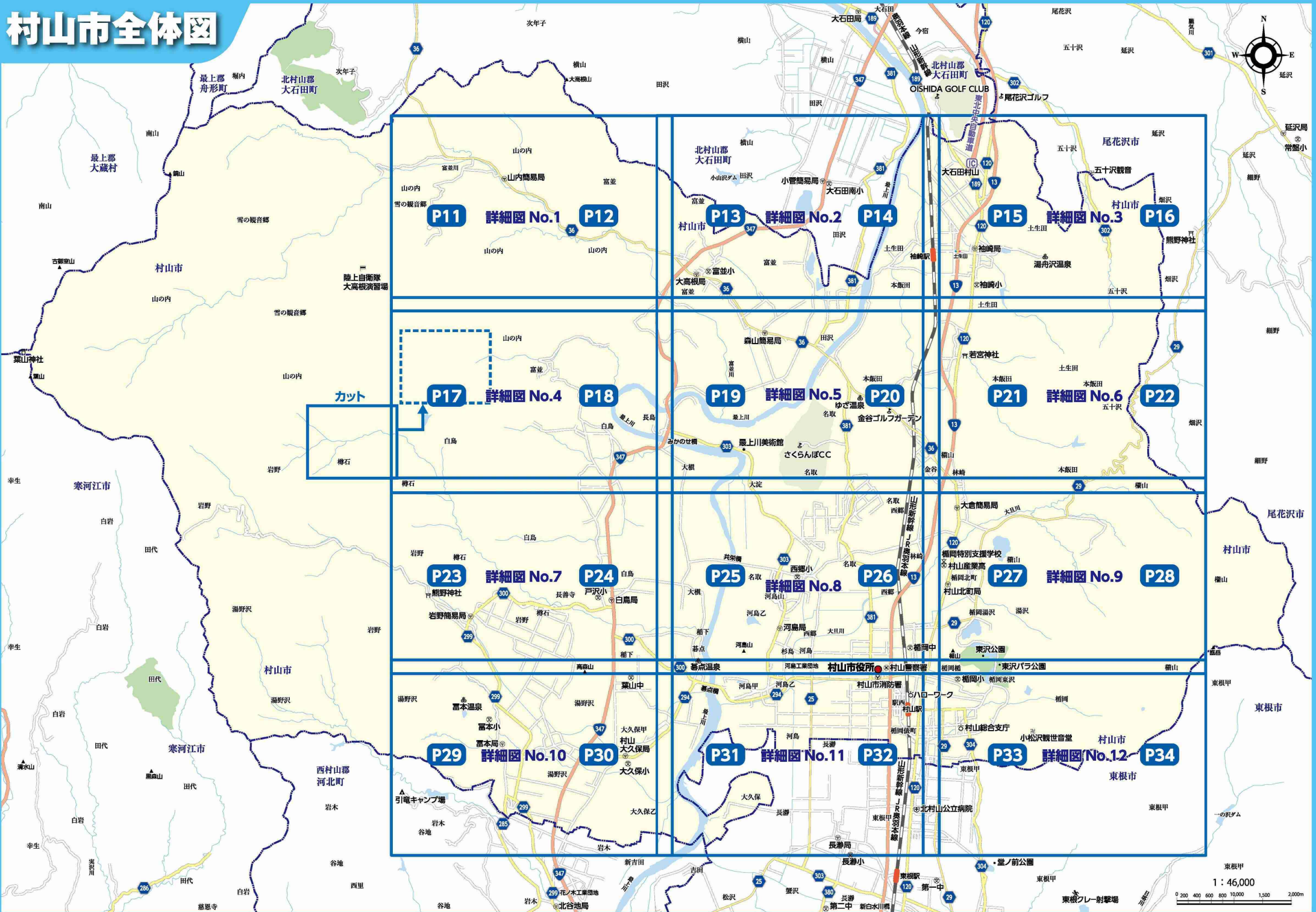
山形盆地断層帯マップ図(村山市)

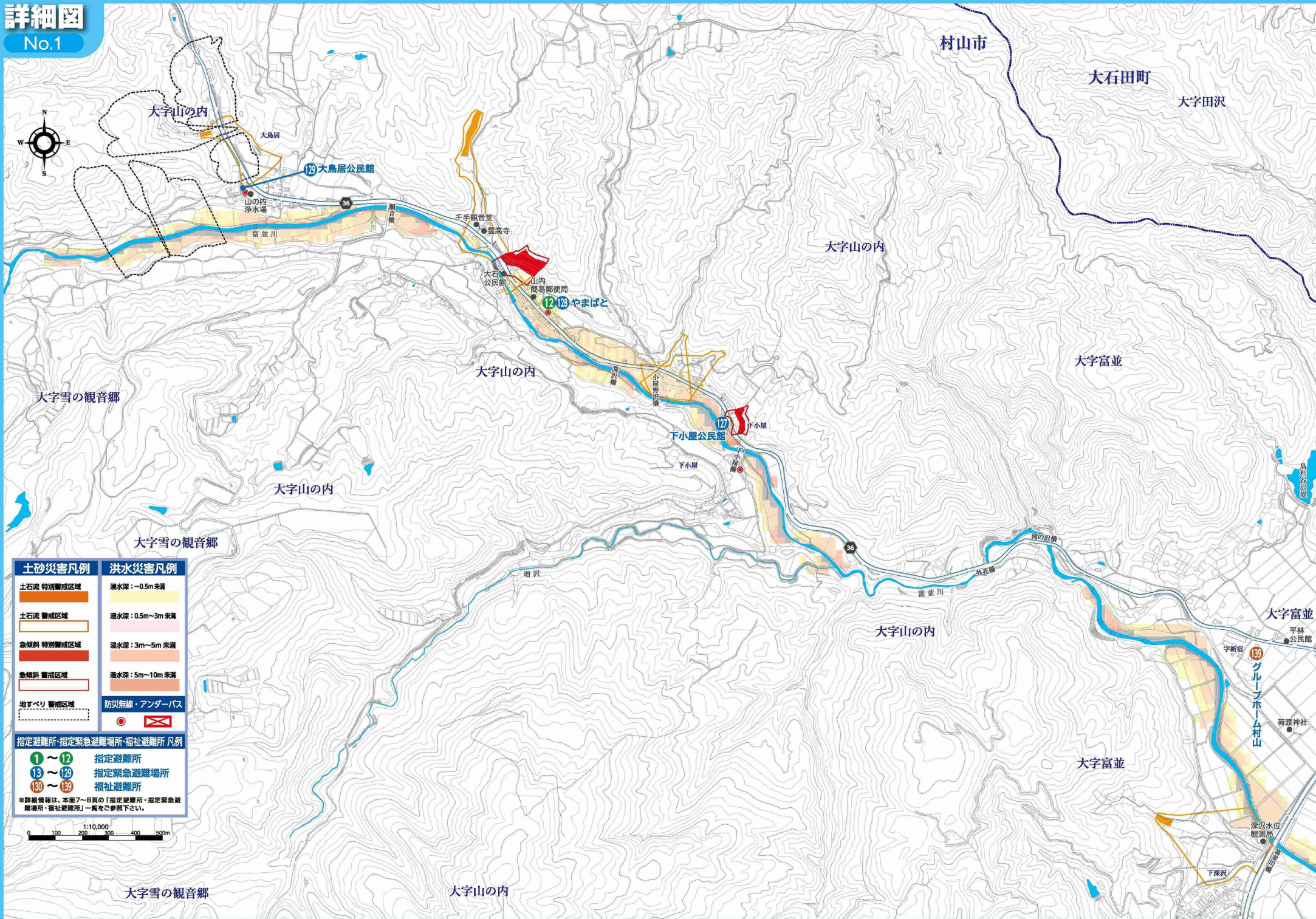
山形盆地断層帯は、山形盆地の西縁に位置する活断層帯です。

大石田町から村山市、河北町、寒河江市、中山町、山辺町、山形市を経て、上山市に至る断層帯です。全体の長さは約60kmで、概ね南北方向に延びています。



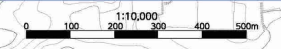
村山市全体図





土砂災害凡例	洪水災害凡例
土石流 特別警戒区域	浸水深：～0.5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：0.5m～3m未満
急傾斜 特別警戒区域	浸水深：3m～5m未満
急傾斜 警戒区域	浸水深：5m～10m未満
地すべり 警戒区域	防災無線・アンダーパス
指定避難所 指定緊急避難場所 福祉避難所 凡例	
① ～ ⑫ 指定避難所	
⑬ ～ ⑮ 指定緊急避難場所	
⑯ ～ ⑰ 福祉避難所	

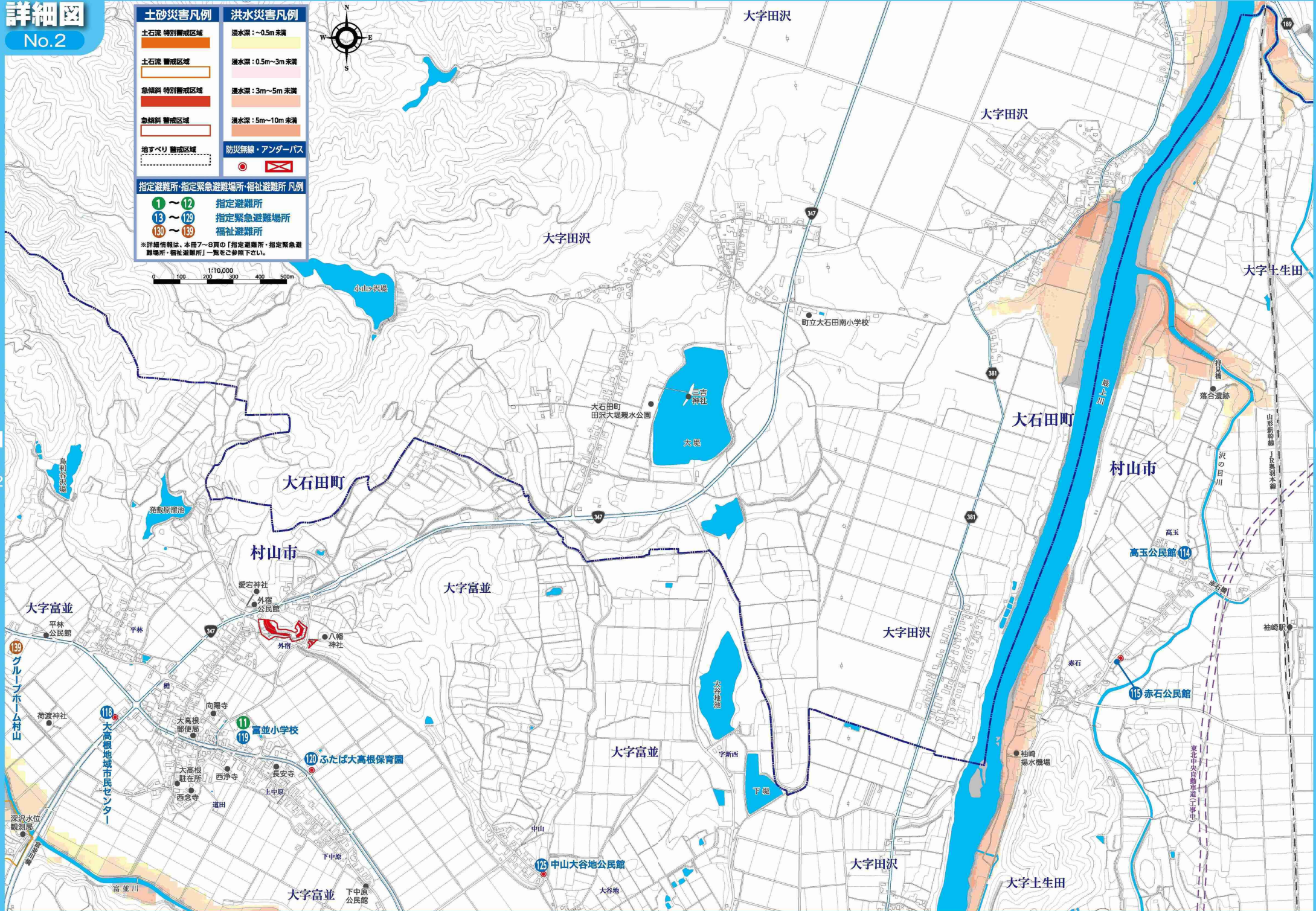
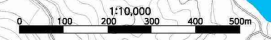
※詳細情報は、本書7～9頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。



大字雪の観音郷

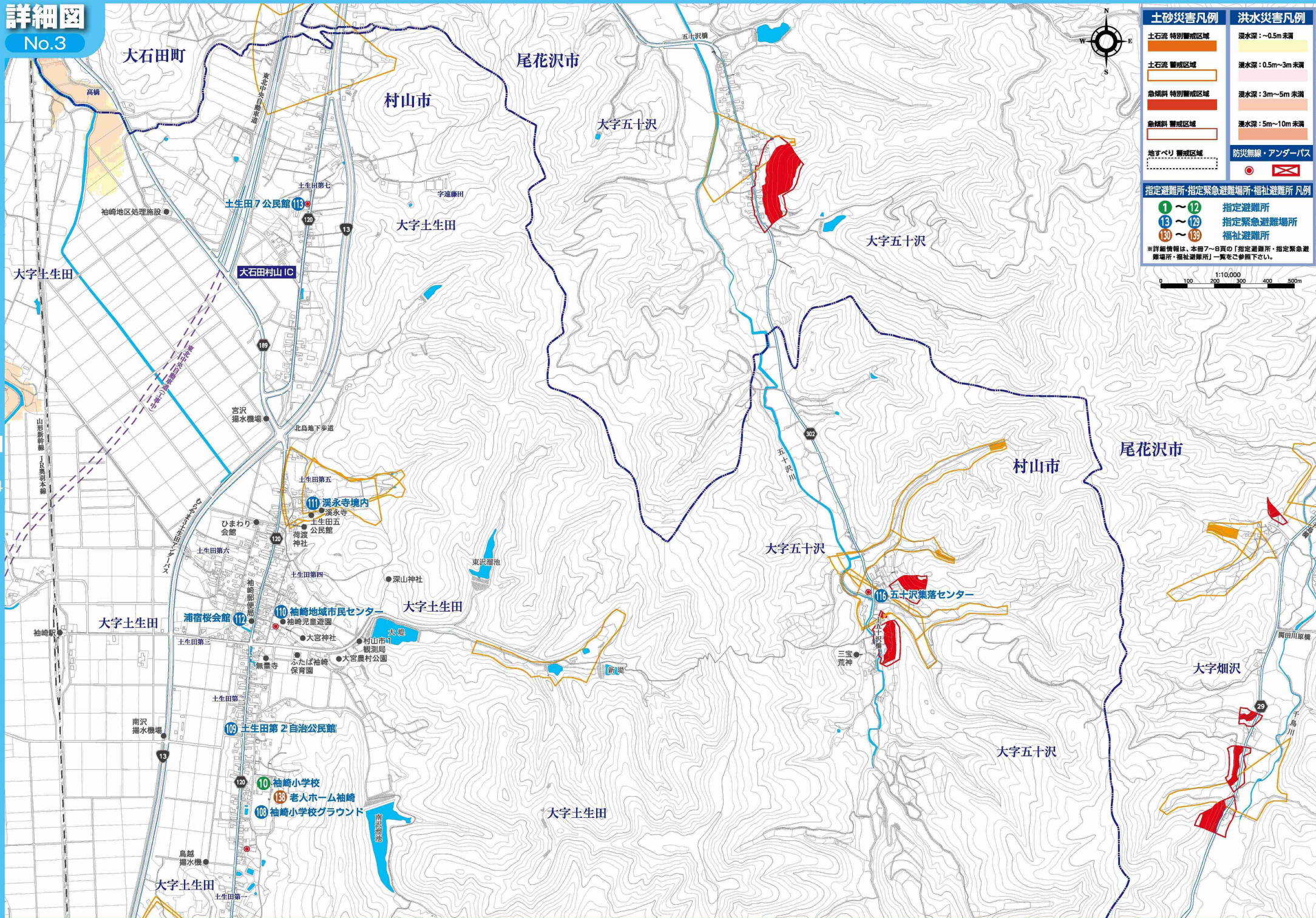
土砂災害凡例	洪水災害凡例
土石流 特別警戒区域	浸水深：～0.5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：0.5m～3m未満
急傾斜 特別警戒区域	浸水深：3m～5m未満
急傾斜 警戒区域	浸水深：5m～10m未満
地すべり 警戒区域	防災無線・アンダーパス
指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所 凡例	
①～⑫	指定避難所
⑬～⑯	指定緊急避難場所
⑳～㉑	福祉避難所

※詳細情報は、本図7～8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。

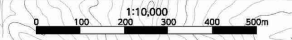


P12

P15



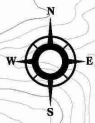
土砂災害凡例		洪水災害凡例	
土石流 特別警戒区域	浸水深：-0.5m未満	浸水深：0.5m~3m未満	浸水深：3m~5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：5m~10m未満	浸水深：5m~10m未満	浸水深：5m~10m未満
急傾斜 特別警戒区域			
急傾斜 警戒区域			
地すべり 警戒区域			
		防災無線・アンダーパス	
指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所凡例			
① ~ ⑫	指定避難所	⑬ ~ ⑮	指定緊急避難場所
⑯ ~ ⑲	福祉避難所	⑳ ~ ㉑	福祉避難所
※詳細情報は、本冊7~9頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。			



P14

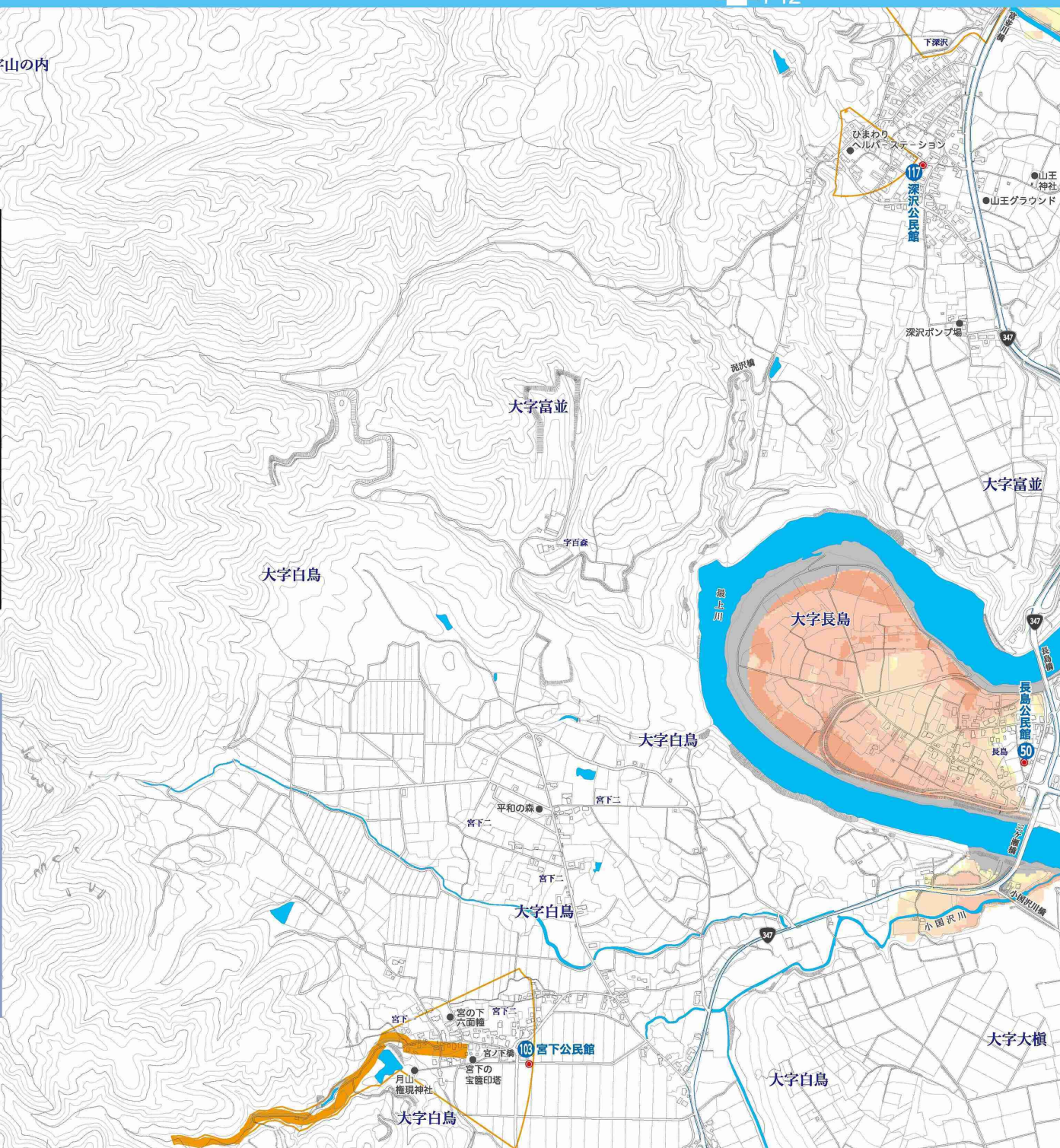
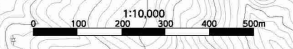
大字雪の観音郷

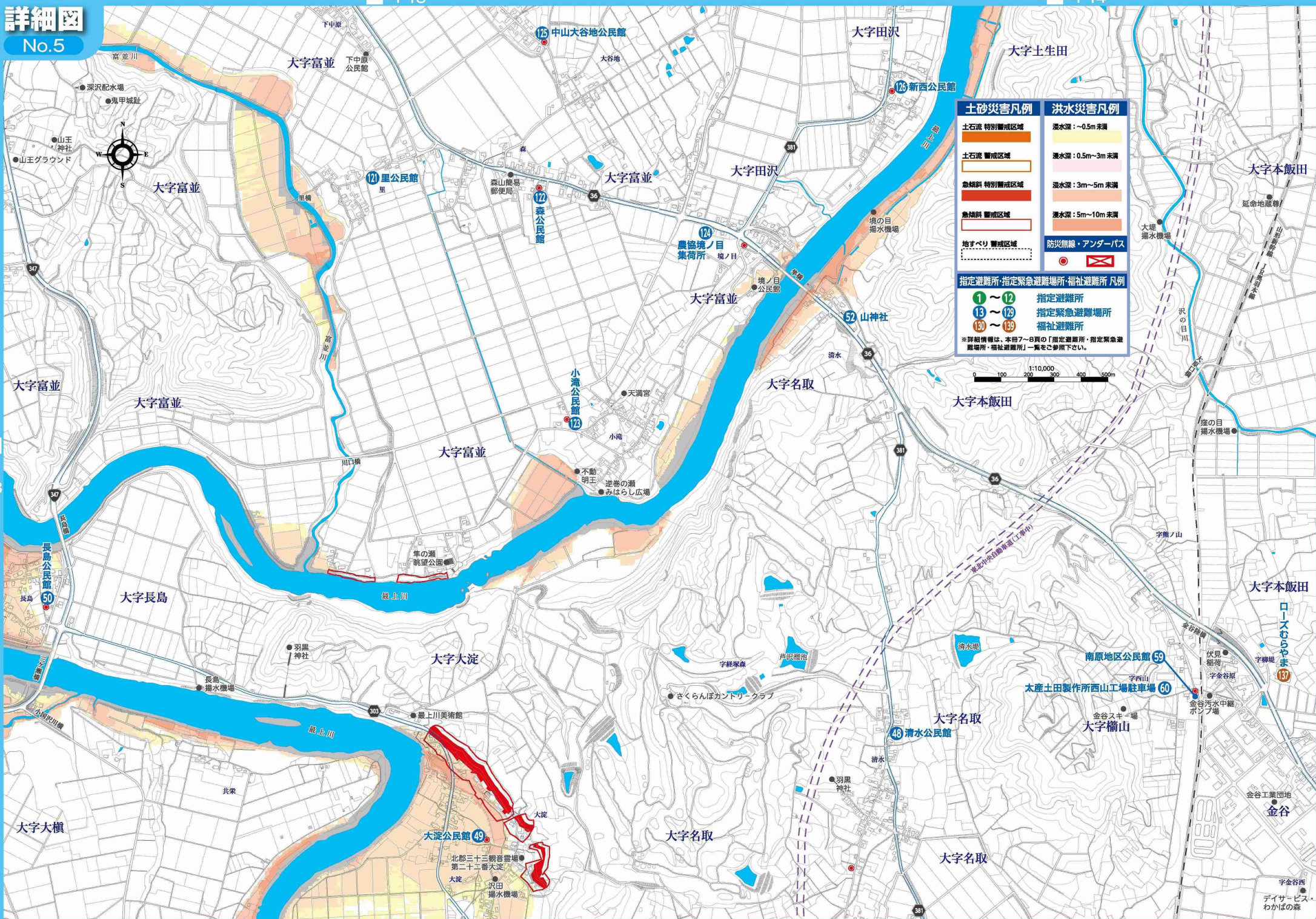
大字山の内

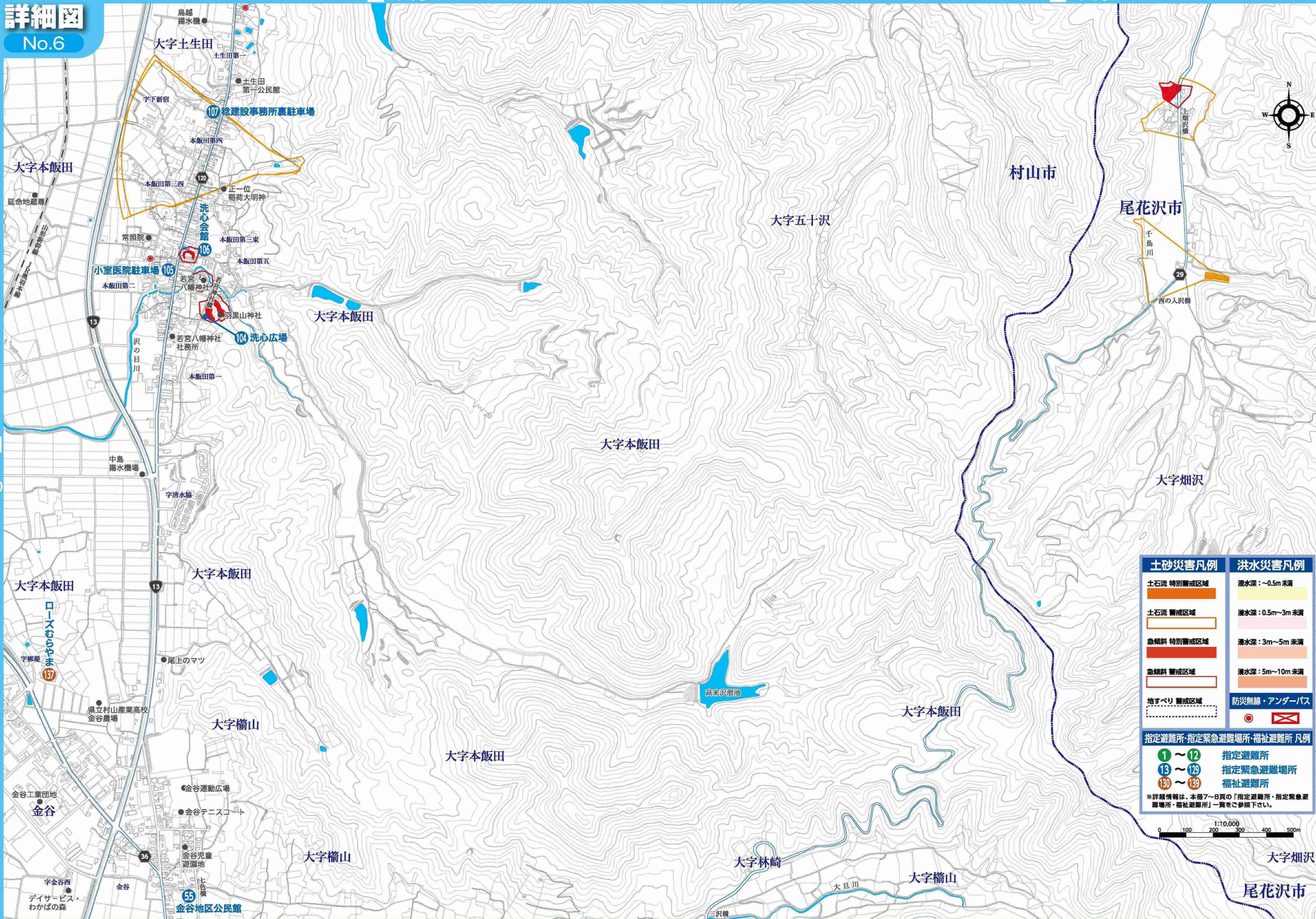


土砂災害凡例		洪水災害凡例	
	土石流 特別警戒区域		浸水深：～0.5m未滿
	土石流 警戒区域		浸水深：0.5m～3m未滿
	急傾斜 特別警戒区域		浸水深：3m～5m未滿
	急傾斜 警戒区域		浸水深：5m～10m未滿
	地すべり 警戒区域		防災無線・アンダーパス
指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所 凡例			
	1～12	指定避難所	
	13～129	指定緊急避難場所	
	130～139	福祉避難所	

※詳細情報は、本冊7～8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。

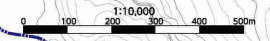






土砂災害凡例	洪水災害凡例
土石流 特別警戒区域	浸水深：～0.5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：0.5m～3m未満
急傾斜 特別警戒区域	浸水深：3m～5m未満
急傾斜 警戒区域	浸水深：5m～10m未満
地すべり 警戒区域	防災無線・アンダーパス
指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所凡例	
①～⑫	指定避難所
⑬～⑯	指定緊急避難場所
⑰～⑲	福祉避難所

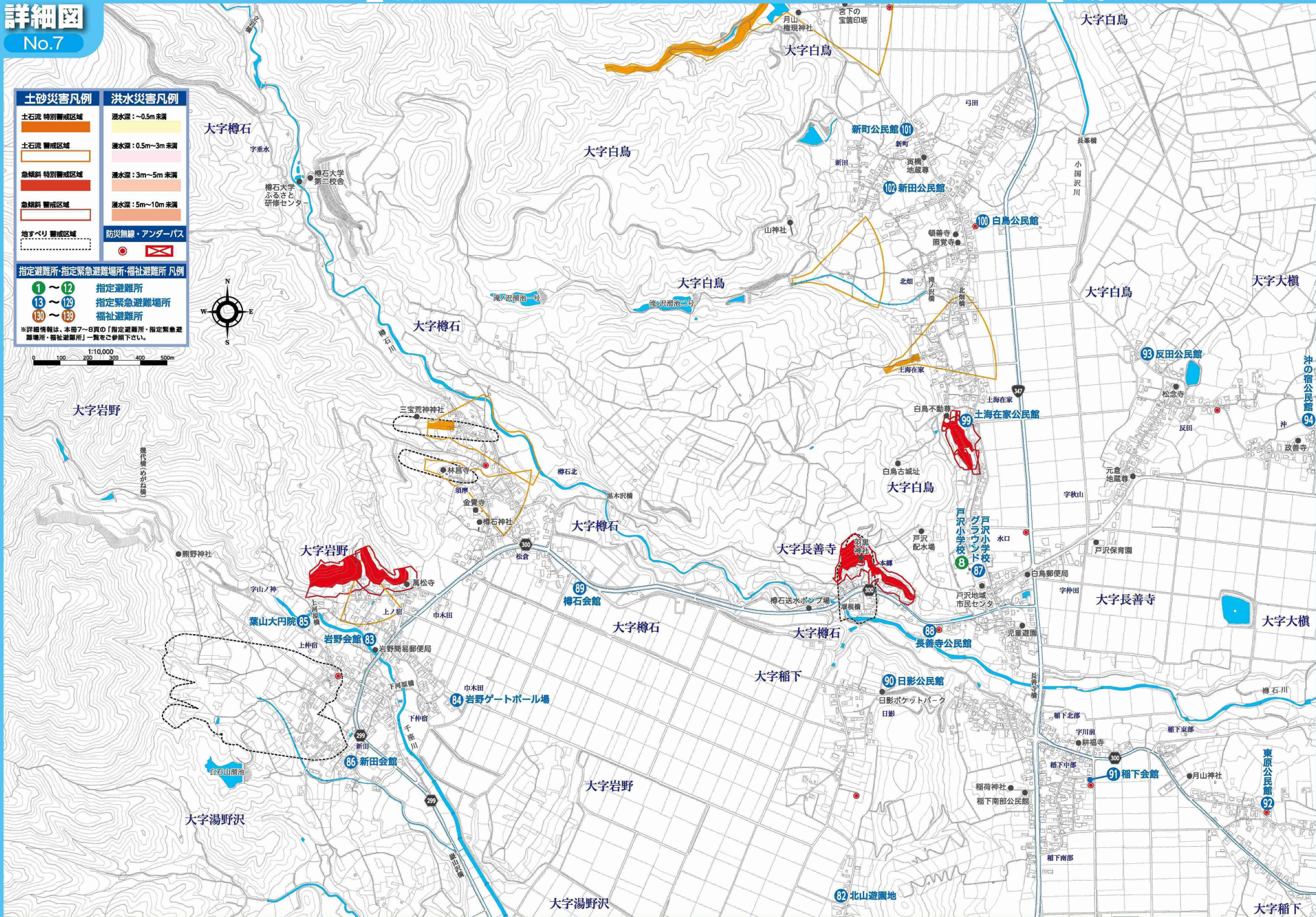
※詳細情報は、本冊7～8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。

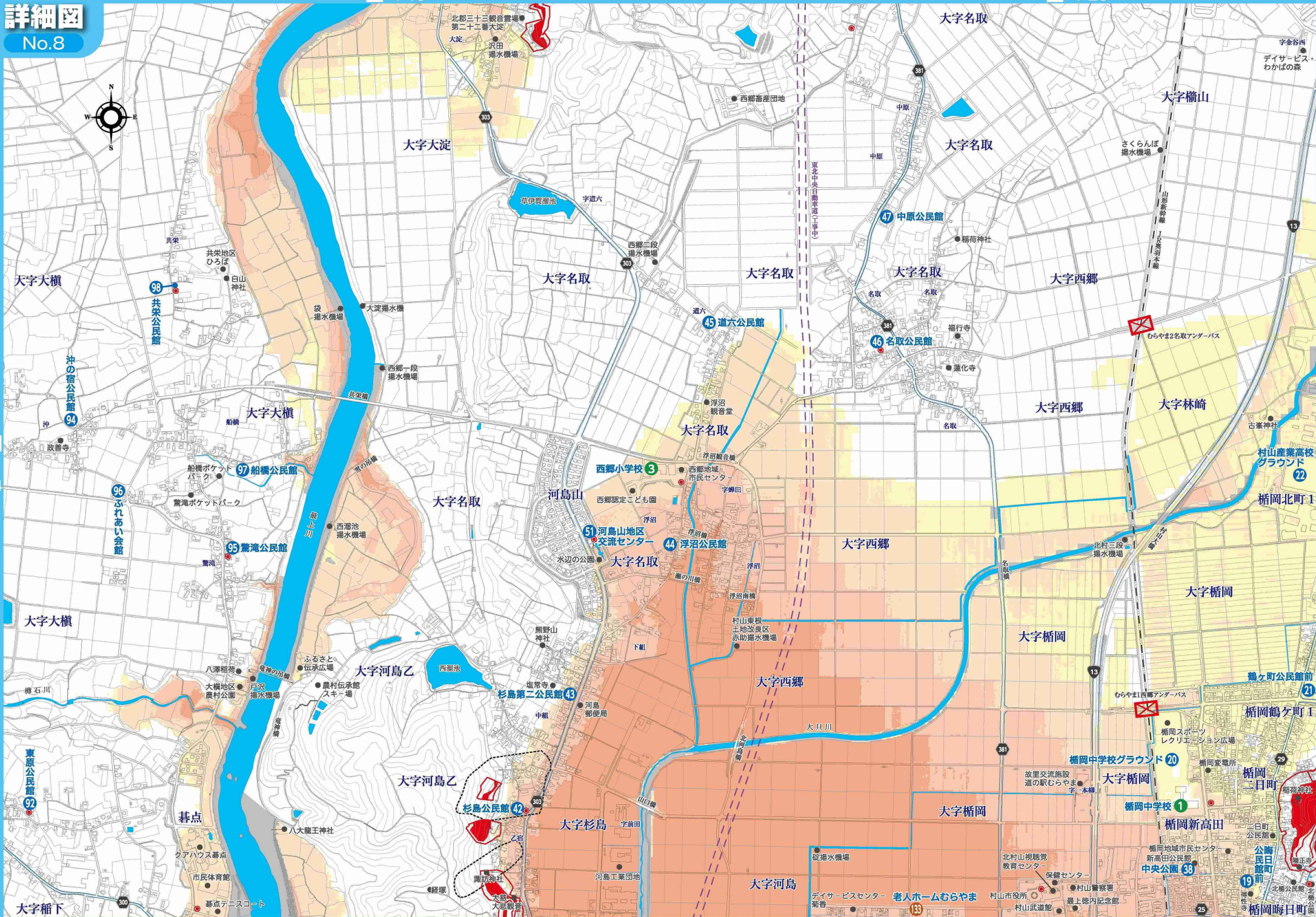


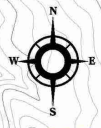
土砂災害凡例	洪水災害凡例
土石流 特別警戒区域	浸水深：~0.5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：0.5m~3m未満
急傾斜 特別警戒区域	浸水深：3m~5m未満
急傾斜 警戒区域	浸水深：5m~10m未満
地すべり 警戒区域	防災無線・アンダーパス

指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所 凡例	
① ~ ⑫	指定避難所
⑬ ~ ⑯	指定緊急避難場所
⑰ ~ ⑲	福祉避難所

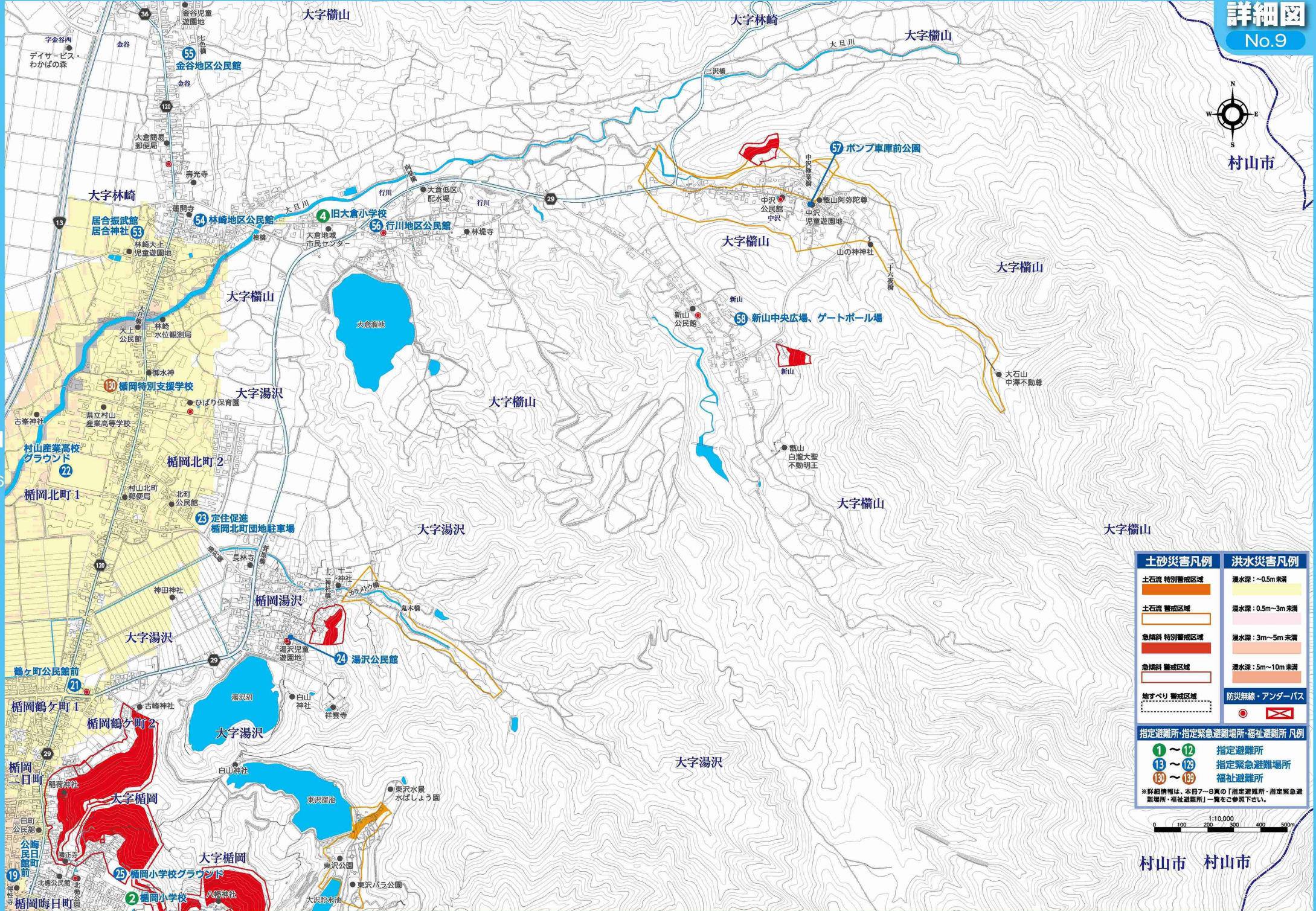
※詳細情報は、本冊7~8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。







村山市



土砂災害凡例	洪水災害凡例
土石流 特別警戒区域	浸水深：～0.5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：0.5m～3m未満
急傾斜 特別警戒区域	浸水深：3m～5m未満
急傾斜 警戒区域	浸水深：5m～10m未満
地すべり 警戒区域	防災無線・アンダーパス

指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所 凡例	
①～⑫	指定避難所
⑬～⑯	指定緊急避難場所
⑳～㉑	福祉避難所

※詳細情報は、本冊7～8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。

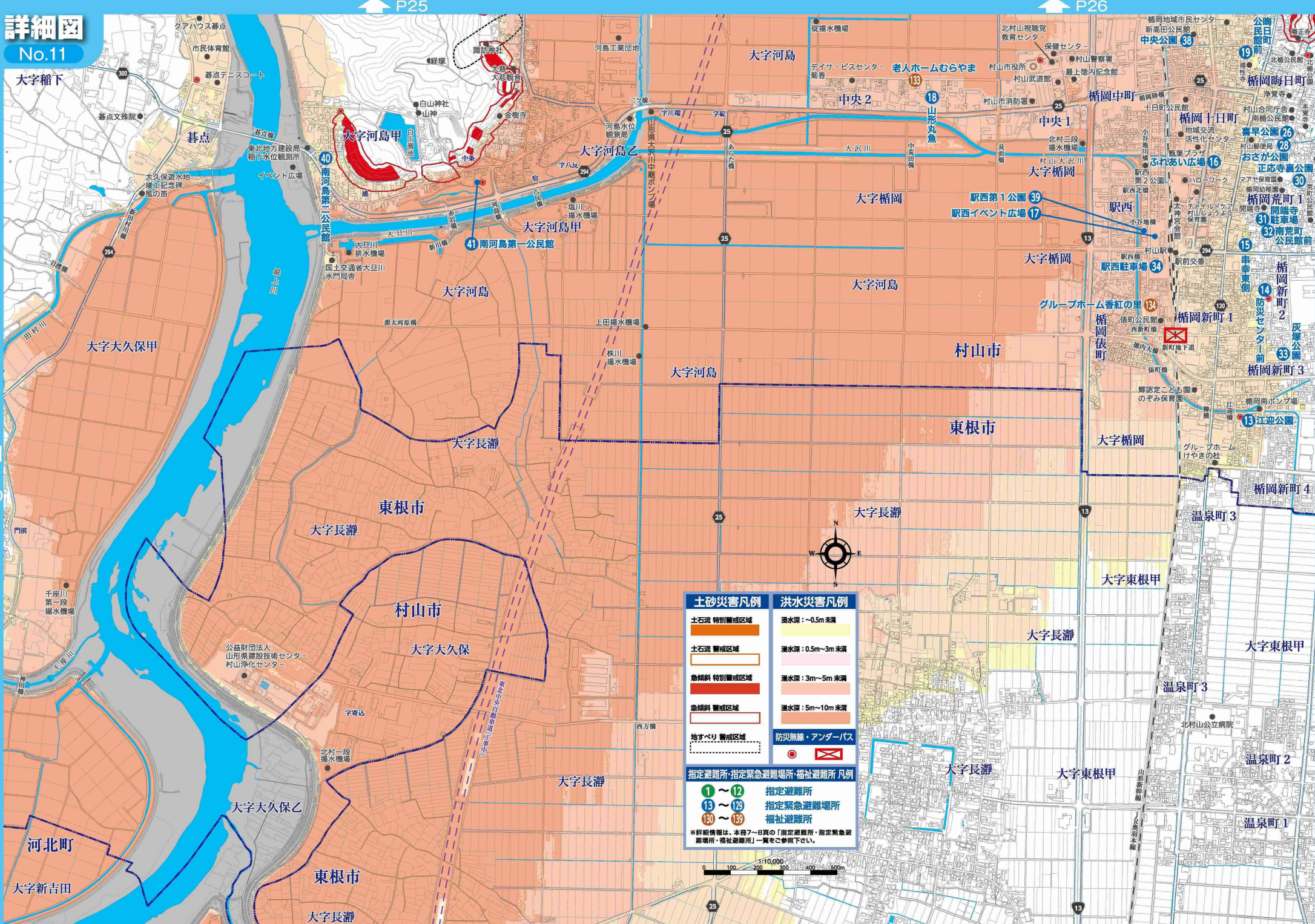


村山市 村山市

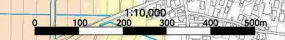


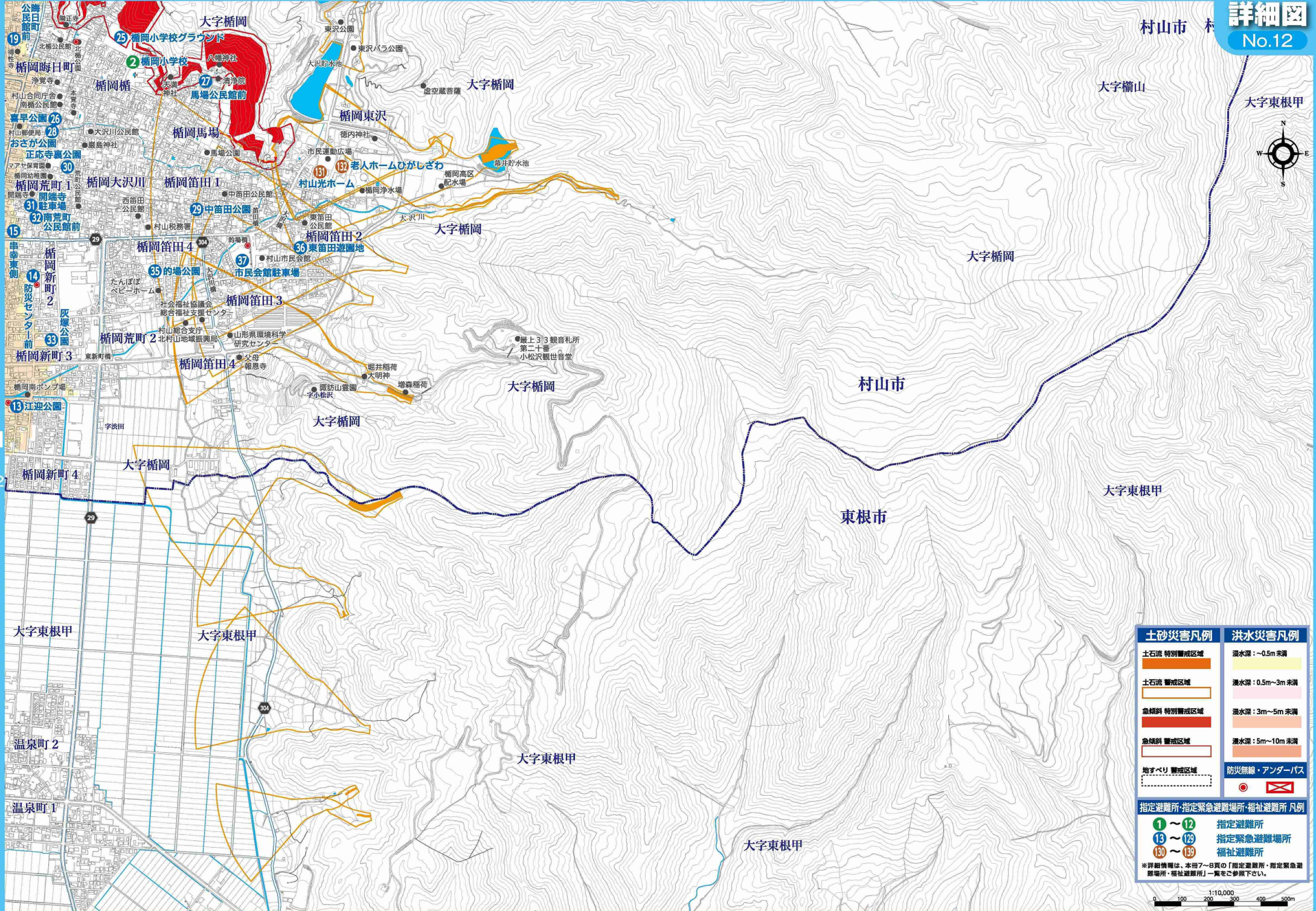
土砂災害凡例	洪水災害凡例
土石流 特別警戒区域	浸水深：～0.5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：0.5m～3m未満
急傾斜 特別警戒区域	浸水深：3m～5m未満
急傾斜 警戒区域	浸水深：5m～10m未満
地すべり 警戒区域	防災無線・アンダーパス
指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所 凡例	
①～⑫ 指定避難所	
⑬～⑲ 指定緊急避難場所	
⑳～㉓ 福祉避難所	

※詳細情報は、本冊7～8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。



土砂災害凡例		洪水災害凡例	
土石流 特別警戒区域		浸水深：1~0.5m未満	
土石流 警戒区域		浸水深：0.5m~3m未満	
急傾斜 特別警戒区域		浸水深：3m~5m未満	
急傾斜 警戒区域		浸水深：5m~10m未満	
地すべり 警戒区域		防災無線・アンダーパス	
指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所 凡例			
① ~ ⑫	指定避難所	⑬ ~ ⑯	指定緊急避難場所
⑬ ~ ⑯	指定緊急避難場所	⑳ ~ ㉙	福祉避難所
⑳ ~ ㉙	福祉避難所	※詳細情報は、本冊7~8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。	





土砂災害凡例		洪水災害凡例	
土石流 特別警戒区域	浸水深：~0.5m未満	浸水深：0.5m~3m未満	浸水深：3m~5m未満
土石流 警戒区域	浸水深：5m~10m未満	急傾斜 特別警戒区域	防災無線・アンダーパス
急傾斜 警戒区域	指定避難所	急傾斜 警戒区域	指定緊急避難場所
地すべり 警戒区域	指定避難所	指定緊急避難場所	福祉避難所
	指定避難所	指定緊急避難場所	福祉避難所
	指定避難所	指定緊急避難場所	福祉避難所

指定避難所：指定緊急避難場所・福祉避難所 凡例

1 ~ 12 指定避難所
13 ~ 129 指定緊急避難場所
130 ~ 139 福祉避難所

※詳細情報は、本冊7~8頁の「指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所」一覧をご参照下さい。



洪水浸水想定区域浸水継続時間

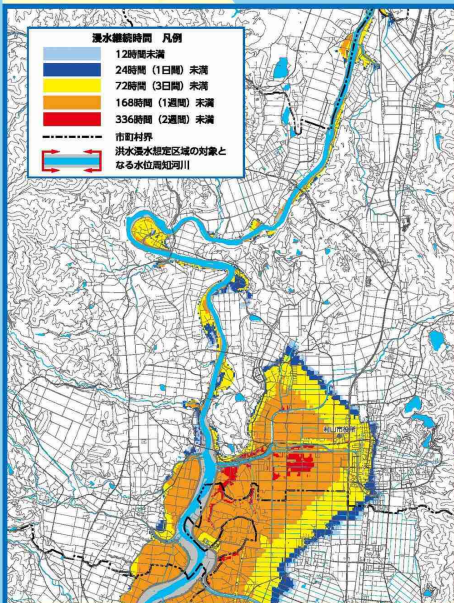
「浸水継続時間」とは

市町村長による屋内での待避等の安全確保措置の指示等の判断に資する情報として、任意の地点において、氾濫水到達後、屋外への避難が困難となり孤立する可能性のある浸水深0.5mに達してからその水深を下回るまでにかかる時間を示すものです。「浸水継続時間」が長い地域では、ライフラインの途絶等により避難生活が困難となる恐れがあることから、立ち退き避難(水平避難)の要否の判断に有用な情報となります。

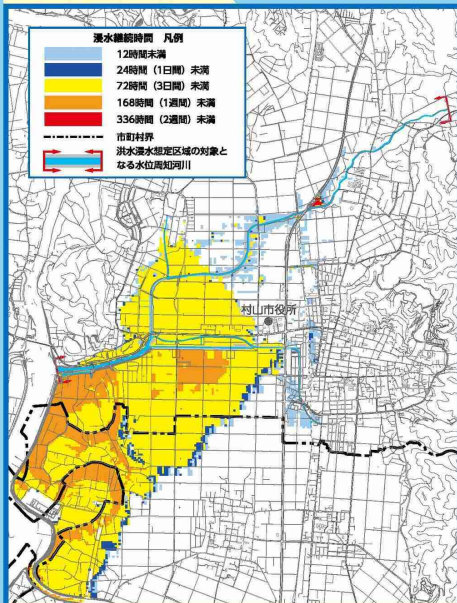
最上川 山形河川国道事務所 ホームページ 	大旦川・富並川 山形県庁ホームページ 	山形県河川 砂防情報 県内の雨量・水位情報、河川の状況等をリアルタイムで提供(山形県県土整備部提供) 
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

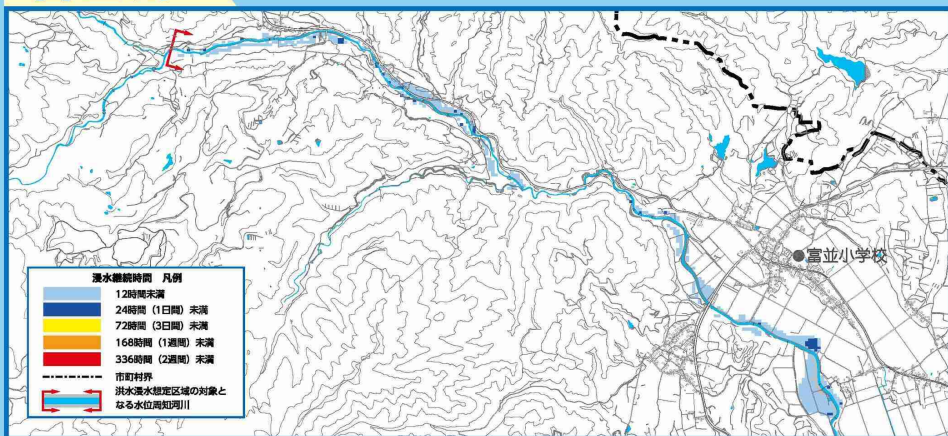
最上川



大旦川



富並川



わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつかある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



□ 子どもやお年寄りのいる部屋、寝室には家具を置かない

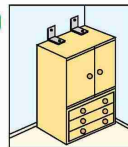
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

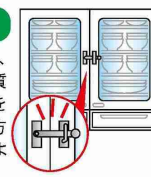
ダンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



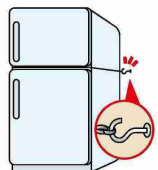
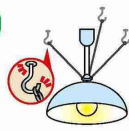
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



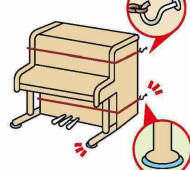
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。またテレビの上には物を置かない。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

□ 屋根

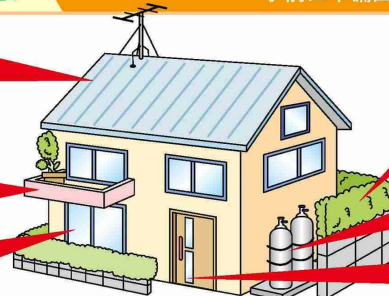
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

□ 非常口の確保

非常時持出品の準備&チェック

いざというときにすぐに出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



- 常備薬
- ばんそうこう
- きず薬
- 包帯
- かぜぐすり
- 胃腸薬
- 鎮痛剤

貴重品



- 現金
- 預貯金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品等

- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 離乳食
- 粉ミルク



その他

- 衣類(下着・上着など)
- タオル
- 生理用品
- 紙おむつ
- 缶切り
- 栓抜き
- 紙皿
- 紙コップ
- 水筒
- カップ
- ウエットティッシュ
- ライター
- ヘルメット
- ラップフィルム
- 防災マップ(本書)
- (止血や食器にかぶせて使う)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(1週間)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)又は貯水した防災タンクなど

非常食品



- お米(アルファ化米など)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- パケツ・各種アウトドア用品など

お手軽防災のススメ

ローリングストックはじめよう!

ローリングストックとは、普段使う食料や日用品を、もしもの場合に備えて多めに買って置き、古くなったものから日々の生活の中で使い、使った分を買い足すことで常に新しいものを保存しておくという、新しい災害用備蓄の考え方です。「災害に備えなきゃいけないのはわかっているけど、何をすれば…」とお考えのあなた。まずはローリングストックで、簡単・手軽に防災、はじめてみませんか。



わが家の「防災・緊急情報」メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報です。災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・市に情報を提供します。

氏名		電話	
住所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ

氏名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関

[メモ] ※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

氏名	間柄	電話	住所	メモ

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは? NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板(web171)」との連携により、伝言内容を相互に確認が可能。

伝言の録音	171-1-▲▲▲▲-■-◆◆◆◆(被災地の電話番号)	伝言保存期間	運用期間終了まで
伝言の再生	171-2-▲▲▲▲-■-◆◆◆◆(被災地の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20件(提供時にお知らせいたします)
伝言内容	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	固定電話、IP電話(050含む)、携帯電話、PHS